

# Jay Hong

1979年韓国ソウル生まれ。

2003年ITエンジニアとして来日した以来、東京在住。

電子機器としてのデジタル一眼レフに興味を持ち、神島美明、高崎勉、松龍に指導を受けて作家活動を始める。

数多くの人々が国境を越えて行き来し、インターネットが成熟した情報社会では個人のアイデンティティに対する既成概念の変化が必要だと考える。

「写真に現れるアイデンティティとは何か」を自問自答しながら作品を撮り続けている。

## ■主な展覧会、写真活動歴

2017 PHaT PHOTO 写真展 Re:Light

2019 Abox Photo Academy 写真展 2019

## 僕の街 ～光の色、影の色～

国や地域が違って人々が作り上げた故か街はどこか知っている場所のように感じる所がある。生まれ故郷を離れて外国での生活が長いせいかもしれない。或いは都会生まれ育ちだからかもしれない。特に都会の街ではどんな国に行っても言葉では説明し難い親密感を感じ、それは何故だろうとファインダーから覗き街を記録し、答えを探し続けている。

いつものようにカメラをぶら下げて知らない街を気の向くまま歩いていた。黄昏時に写った空と街は、空は色褪せた黄色、街は限りなく灰色に近く、光と影のように写ることに気付いた。

そして、人工の光が夜の街を太陽にでもなったかのように色鮮やかに照らし、また影を作っているのが都会の街だ。しかし、街は影ではなくその中には文明があり自然があり、人々が生きているはずだ。

様々な国の都会の街をただ歩きながらファインダーを通して写し、一つの色にしたことで、一つの集合体＝街として感じたとも言えるだろうか。人の目では見ることのできない同じ色の光と影を持った街は、カメラが教えてくれた「僕の街」だ。

Jay Hong